

No.31 蔵王こけし人形

こけし人形は、北日本の土産物として有名であり、最初に作られたのは蔵王に近い遠刈田（とがった）温泉だと考えられている。そして明治時代（1867年-1912年）に蔵王や日本の北東部の他の温泉街に広まっていった。人形は伝統的に子供のおもちゃであり、温泉への訪問客がお土産として購入し始めた。手作りの木で作られたこけしは、色々な大きさがあるが、一般的には単一の独特の形で、主要な胴体部分と球形の頭部から成っている。こけしは20世紀に入って収集家の間で人気になり、こけしメーカーは彼らの作品にサインを入れ始めた。

単純な形にもかかわらず、こけしの制作は容易ではなく、木材が伐採された後、制作する前に1～5年の間、乾燥のために放置しなければならない。その後、それは旋盤で切り分けられ、形に応じて、人形は1本か2本の木が使われる。こけしの絵付け装飾は制作場所を反映している。残念ながら、蔵王には少数のこけし職人しか住んでいないので、いずれこの伝統はなくなってしまうかもしれない。